

大津の幼稚園 京都の大学と共同制作

漢字絵本 幼児教育で活用



出来上がった漢字絵本。「王様は行列の用意をさせ」というように、振り仮名の無い漢字が並ぶ

「この漢字は何で読む」。幼稚園の先生がカードを指さして園児たちに尋ねると、元気のいい声が響き渡る。出された問題は、直前に音読した「鬼(一鬼)さぎ」と「亀」や「赤頭巾ちゃん」といった昔話の絵本に出てきた漢字。絵本は特別に作られたもので、斬新なイラストが描かれているほか、振り仮名の無い常用漢字が使われている。

「漢字を読む力が付けば、る聖パウロ学園・瀬田光泉考える力も伸ばすことが、幼稚園では、田中好三理事

「考える力 伸ばせる」

大(京都市左京区)の学生らと共同で30タイトル以上の漢字絵本を作成、幼児教育に生かしている。

漢字絵本を用いた授業は、年少から年長まで全てのクラスで行われており、園児たちは先生と一緒に自分の手元にある絵本を音読する。振り仮名が付いていないくても、カードに書かれた「亀」や「競争」といった漢字の読みもはっきりだ。

挿絵は、京都精華大デザイン学部の角谷和好講師(グラフィックデザイナー)の監督で、学生一人が一冊ずつ担当。文字の大きさや位置などのレイアウトも他の学生が全て受け持ち、2014年度から毎年10冊ずつ、14年7月までに30冊を作成した。

オールカラー20枚の絵本の挿絵は、学生の個性を反映。幼稚園側と絵柄のイメージを相談しながら作業を



漢字絵本と漢字カードを使って学習する園児たち＝大津市の聖パウロ学園・瀬田光泉幼稚園

進めだが、「三匹の子豚」まわっていると思うとうれしを担当した学生は「オオカミ」を目を細めた。ミガ怖すぎ」と言われ、絵本を繰り返して読むことで何度も描き直したという。で文章を覚え、使用されて角谷講師は「相手の要望をいえる漢字も自分のものに聞きながら描く訓練は、大でいく。一見丸暗記のように漢字の授業ではできないことが、語彙(ごい)が増え、と、プロを目指す上で良い。さらには考える力も身に付経験になったのでは」と振返っている。

田中理事は「言葉覚えは、年少から年長まで全てのクラスで行われており、園児たちは先生と一緒に自分の手元にある絵本を音読する。振り仮名が付いていないくても、カードに書かれた「亀」や「競争」といった漢字の読みもはっきりだ。実際に子どもたちに読